

氏名	神 野 健 二		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	甲 第 409 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭 和 50 年 3 月 31 日		
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科病理系病理学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学 位 論 文 題 目	Large Round Cell Granulomas Induced by Murine Sarcoma Virus (Moloney) in Mouse Brain. (マウス脳におけるモロニー肉腫ウイルス誘発大型円形細胞性肉芽腫)		
論 文 審 査 委 員	教授 矢 部 芳 郎	教授 妹尾左知丸	教授 佐 藤 二 郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、マウス中枢神経系においてモロニー肉腫ウイルス (MSV-M) により誘発される病変を組織学的、電顕的に検索したものである。

新生児スィスマウスにMSV-Mを筋肉内接種することにより得た腫瘍組織から、改変したモロニーウイルス精製法により、ウイルス浮遊液を得た。このウイルス液を生後5日以内、6日から10日以内、11日から20日以内の3群のスィスマウスの頭蓋内に接種したところ、それぞれ82.8%、71.4%、68.0%の頻度で、特徴的な脳内肉芽腫が発生した。平均潜伏期間は、各群で16.5、21.1、及び33.5日であった。対照群及び成熟マウスにおいては脳内病変は認められなかった。組織学的に脳内肉芽腫は好中球、単球を主体とする炎症細胞浸潤、反応性の毛細血管増殖並びに神経膠細胞増生から成り、特徴的なことは多数の特異な大型円形細胞の出現することであった。長期生存した例においては炎症細胞浸潤は次第に消褪し、毛細血管及び大型円形細胞数は減少し、膠細胞増生が強くなっており、これらは肉芽腫の修復像と考えられた。初期病巣は、ウイルス接種後平均12日で上衣細胞層直下に高率に出現し、当初から大型円形細胞を混じえる膠細胞増生からなっていた。その後、炎症細胞浸潤、大型円形細胞の出現、毛細血管新生がますます強くなり、約17日で完成病巣となった。

電顕的に大型円形細胞は胞体内に神経膠細胞線維に酷似した微細な線維を豊富に有し、脳実質深部に出現すること、同細胞周囲に好銀、膠原線維の認められないことを考え合せ、神経膠細胞由来のものと考えられた。また大型円形細胞周囲および毛細血管周囲に多数のC型RNAウイルス粒子が存在し、大型円形細胞、血管内皮細胞からのウイルス発芽像も観察された。

MSV-M がマウス脳内に肉芽腫性病変を誘発することは、ウイルスの性格の一端を示

唆するものとして重要なものと考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は、マウス脳にマウス肉腫ウイルスを接種して発生する病変を経時的に病理組織学的に検討し、それがむしろ肉芽腫性のものであることを明らかにしたもので、腫瘍ウイルスの研究において意義あるものであり、医学博士の学位に価するものと認める。